



言語聴覚障害のある人の コミュニケーション支援について

保健福祉学部 コミュニケーション障害学科
准教授 長谷川 純 (はせがわ じゅん)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス
Tel 0848-60-1120 Fax 0848-60-1134

専門分野： 言語聴覚障害学

キーワード： 言語障害 聴覚障害 コミュニケーション支援
要約筆記 アサーション・トレーニング

● 現在の研究について

言語や聴覚に障害がある方々の、コミュニケーションや社会生活を支援する方法を研究しています。

1 文字によるコミュニケーション支援

聴覚に障害のある方が講演会や講習会に参加したいと思っても、聞こえの問題のため、話の内容がわかりません。また、たとえば、病院で診察を受ける時にも、医師とのコミュニケーションをスムーズに行なうのは困難なことがあります。こんなときに要約筆記者と呼ばれる人が同行して、話の内容を聞きながら、要約して書き取ってあげれば、聴覚障害のある方が話の内容を理解し、スムーズなコミュニケーションをとることができます。

また、脳卒中の後遺症などで失語症になった場合、耳は聞こえていても、言葉を聞いて理解することが困難になることがあります。このような場合も、やはり、話の内容の要点を文字で書いてもらえば、話の内容の理解がしやすくなる場合があります。

こうした文字によるコミュニケーション支援をするには、話を聞きながら要約し、その場で書き取っていくという複雑な作業が必要です。その作業を行なうには、さまざまな能力を活用していると考えられます。どんな能力が必要なのか、その能力を効果的に使うにはどうしたらよいか、また、その能力を伸ばすにはどうしたらよいか。こ

うした、文字によるコミュニケーション支援の技術向上にかかわる諸問題を研究しています。

2 コミュニケーション技術向上支援

言語聴覚障害のある方々が社会生活をするなかで、さまざまな困難を経験するといわれています。しかし、場合によっては、コミュニケーション技術を用いることで、そうした困難を減らすことができることがあります。アサーション・トレーニングと呼ばれる方法を中心に、言語聴覚障害のある方々がコミュニケーション技術を向上させ、快適な社会生活をしていくことを支援するプログラムを開発しています。

● 今後進めていきたい研究について

定期的な講習を開催するなど、研究の成果をすぐに取り入れながら、言語聴覚障害のある方々の生活に役立てていただけるような継続的な実践を行なっていきたいと思えます。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

障害者団体、支援者団体、社会福祉団体、行政などの方々と必要な支援を相談しながら方向性を見つけていく取り組みをしたいと思えます。

● これまでの連携実績

行政などと連携し、要約筆記者、手話通訳者、失語症ボランティアの養成などに関わってきました。